「勉強とは…。」

3年　M.K

みなさんは勉強についてどんなイメージを持っていますか？私は今まで嫌なイメージしかありませんでしたし、「勉強」や「宿題」という言葉を聞くことすら不快でした。しかし少し前に放送されていたテレビドラマの「下剋上受験」を見たときにこの考えが大きく変わりました。ドラマの内容は、偏差値41の主人公が塾へ行かず中卒の父親と一緒に最難関校を目指す話です。一見無謀な挑戦をしている親子に見えますが挫折をくり返しながらも、諦めず、挑戦から一年後には偏差値を62まで上げました。悔しくも最難関校には落ちてしまったものの、その次にレベルが高い学校に合格しました。合格後、主人公の桜井佳織さんは「勉強は世界が思いっきり変わる。見たことのない世界になる。」と言っていました。この言葉を聞いて私は、今まで「もう限界だ」と感じるまで勉強したことがあっただろうかと過去をふり返ってみましたが、堂々と「あった！」とは言えないことに気がつきました。今思えば、中学受験の時、本気でやっていたとは思えません。勉強はたくさんしていましたが分からない所を多くとばしていたような気がします。だから今後の学校ではこのようなことがないように取り組んでいこうと思いました。

桜井佳織さんは、小学校の楽しみを全て捨ててしまいましたがそれでも良かったと言っています。果たしてそれは本当に良いことなのでしょうか？私が思うに何も目標のない人がそんなことをしても後々後悔ばかりがうまれてしまうと思います。しかし、自分の夢を叶えたいのであれば努力は不可欠です。そう考えると、楽しい今の時期を勉強にささげるのは良いことかもしれません。今は必ず約束はされない自分の夢ですが叶った時のことを常にイメージしながら努力をつみ重ねたいです。その努力が報われたあかつきには今までの苦労がけっして無駄にはならない未来が待っているのだと思います。よく大人が「もっと勉強すればよかった…。」と言っています。私は将来そんなことを言わないで済むように学生という限られた期間中に将来の自分が納得いくまで勉強していきたいなと思いました。

ところで、私には夢があります。中三になったばかりでこんなことを言うのは少々生意気かもしれませんが目指している大学があります。今はまだ全く手の届かないレベルですが、これから大学受験までの四年間は余裕をもってなまけていたら、手の届かないまま終わってしまうと思います。だから残りの時間を有効に使い色々と挑戦していきたいと思ってます。

今回、この感話を書くにあたって改めて勉強することの大切さを知ることができました。私はいつもテスト期間が終わってしまうとせっかく覚えたたくさんの知識がかなり抜けてしまいます。しかし定期テストはあくまでもどれくらい理解しているのかを確認することで、ゴールや終わりではありません。大事なのは学んだことを自分のものにすることです。これからは知識を継続して持ち続けることと、ずっと苦手としていた本をたくさん読むようにしてボキャブラリーを豊富にできるようにしたいです。勉強についてここまで考えたので、またふいにこのテーマが思いついたときにもっと深く考えてみたり、哲学的に考え

てみたりしてその時の自分の勉強に対する姿勢を見直していきたいと思いました。